

効果的な看護技術演習の検討

小倉 之子

看護学部

【目的】看護専門学校1年生に対し全身清拭技術における技術評価を行い、学生の技術習得度の傾向を明らかにし効果的な演習内容を検討することを目的とした。

【方法】A 看護専門学校1年生36名に対し基礎看護援助論Ⅲのうち清潔援助における授業（寝衣交換、口腔ケア、洗髪、部分浴）を行い、全身清拭技術演習および技術チェックを実施した。その後、技術習得度を知るため独自の全身清拭技術チェック評価表を作成しそれをもとに評価を行った。倫理的配慮としてプライバシーの保護に厳守し対象者が特定できないよう配慮すること等の同意を得た。

【結果】全身清拭技術チェック合格率が100%の評価項目は「水分を十分にふき取ることができる」、[末梢から中枢へ向かって拭くことができる]、[上肢→頸部・胸部→腹部→後頸部→背部→腰部→臀部の順で拭ける]であった。合格ラインである60%を下回る評価項目は「室内環境を整えることができる」47%、[上肢は関節を支え背部は支えながら拭くことができる]28%、[拭き残し部分がなく拭くことができる]36%、[ボディメカニクスを活用できる]44%であった。学生の傾向として一連の順序で拭くことはできていたが、観察したことの報告を行う事や患者役を意識し配慮した実施が不十分であることが明らかになった。

リカレント学習講座「質的研究の基礎」の臨床研究支援 —臨床看護研究能力を高めるための内発的動機づけについて—

宇城 靖子¹⁾，仲口 路子²⁾

¹⁾ 看護学部成人・老年看護学講座，²⁾ 看護学部基礎看護学講座

【目的】本学看護学部で社会貢献の一環としてリカレント「看護研究の基礎」学習講座を2016年8月に2日間、開講した。「受講生が講座に参加して変化した内容」の聞き取り調査をもとに看護研究能力を高めるための内発的動機づけの変化について明らかにし、「臨床看護研究活動の困難内容」の文献検討とともに、今後の課題を明確化することを目的とした。【方法】同意の得られた受講生8名を対象に講座終了後、「講座に参加して変化したこと」について、30分間、グループインタビュー調査を行った。「変化したこと、変化しなかったこと」にわけ、7つにカテゴリー化し、内発的動機づけができたか検討を行った。さらに看護師が、看護研究活動の困難な内容、6件の文献検討を行い、「研究能力不足」項目の検討をした。倫理的配慮は大学の研究倫理審査委員会の承認を得た。【結果】「変化した内容」検討では内発的動機づけ多く得られたと考えられた。「変化しなかった内容」に「倫理的配慮」「統計を学ぶ時間数不足」があった。文献検討では、講座に含まれていない「倫理的配慮」「研究テーマ絞り込み」「アイデア」「文章能力」があった。今後も動機づけが高められ、看護研究がなされるよう取り組みたい。